



TITLE:

<教室通信>桂キャンパスで電気系 教室の新たな歴史を

AUTHOR(S):

小林, 哲生

CITATION:

小林, 哲生. <教室通信>桂キャンパスで電気系教室の新たな歴史を. Cue
2017, 38: 64-64

ISSUE DATE:

2017-09

URL:

<https://doi.org/10.14989/227459>

RIGHT:

教室通信

桂キャンパスで電気系教室の新たな歴史を

電気工学専攻長・電気電子工学系長 小林 哲 生

今年の4月から、電気工学専攻長と共に電気電子工学系長を務めている関係で、教室通信の執筆依頼を頂きました。そこで今回は、桂キャンパスの近況と教室のさらなる発展を願って日頃考えていることの一端を書かせて頂きます。

桂キャンパスは、苔寺として有名な西芳寺や桂離宮、嵐山にほど近い京都の西、桂御陵坂の中腹に京都大学の第3のキャンパスとして14年前に開設されました。創設以来120年の長い伝統を持つ電気系の同窓生の皆様の中には馴染みのない方も多いことと思います。桂キャンパスからは京都市内が一望でき、8月16日の宵には吉田キャンパス近くの大文字の送り火も望むことができます。

新しく、スペースも広く、閑静な雰囲気の中でじっくりと研究に取組み学業に専念するには理想的な環境です。昨年、私の研究室がお世話をして第18回日本ヒト脳機能マッピング学会という、医学系と工学・情報系との学際領域の学会を桂キャンパス内にある船井講堂で開催させて頂きましたが、国外も含め参加いただいた多くの研究者の方々から、口々に「素晴らしいキャンパスですね」とお褒めの言葉をいただきました。

京都大学の計画では、工学系と情報系の研究室をこの新たなキャンパスに集約することになっており、工学系の移転はほぼ終了しました。一方、残念ながら情報系の移転については目処が立っていない状況が何年も続いています。現在の電気系教室は、工学研究科の電気工学専攻・電子工学専攻、情報学研究科の知能情報学専攻・通信情報システム工学専攻、エネルギー科学研究科ならびに学術メディアセンターや生存圏研究所などを含めた大きな組織です。そのため、電気工学専攻・電子工学専攻の桂キャンパス移転後は、3つのキャンパスに教室が分散されたことによる幾つかの問題が解決されないまま残されています。例えば、教育面では、学部の講義や学生実験、また学期初めの各学生へのアドバイザーなどのために、桂・宇治キャンパスの教員はキャンパスバスを利用する等して吉田キャンパスに頻繁に行く必要があります。その移動などに多大の時間と労力を使うことになっています。また、教室会議もキャンパス間の遠隔会議システムを用いた方式をとってはいますが、直接顔を見ながら話すのとは違って学生の教育や運営などに関する重要な事案について深い議論ができにくいことを危惧しております。

今年度の概算要求で、桂キャンパスに図書館の新設が認められ、再来年にはBクラスターの福利・保健管理棟の隣に完成する予定になっておりキャンパス自体はその魅力を増して行くと思います。桂キャンパスへの移転に関しては必ずしも賛同されない方々もおられることは十分承知していますが、皆が一体となって京都大学の理念である「世界的に卓越した知の創造」と将来のリーダーとなれる輝く人材の育成、そしてこれから100年の新たな電気系教室の歴史を作っていく為に、皆様のご理解とご協力、ご支援を賜ることができれば大変ありがたいと思っています。

